

岐阜県の古民家に、当社の「環境対応マルチエネルギーシステム」を設置

～小水力発電等を組み合わせた地産地消型エネルギー供給システム～

記者各位

当社(社長:木村 康)が設計した家庭用「環境対応マルチエネルギーシステム」が、3月6日(日)に岐阜県郡上市でオープンする岐阜県の次世代エネルギーインフラ構想の「中山間地モデル」の古民家に採用されましたので、お知らせいたします。

今回、採用された当社の家庭用「環境対応マルチエネルギーシステム」は、太陽光発電およびリチウムイオン蓄電池に、中山間地という立地条件を活かした小水力発電を直流で接続し、家庭内に直流でも給電することが可能となり、家庭内の負荷に応じて各機器の発電や充放電を制御することができるとともに、燃料電池も含め、家庭に必要な電力や給湯のほとんどを賅うことが出来るエネルギーの地産地消を目指した独立型マルチエネルギーシステムです。さらに、電力や給湯の使用状況がモニター画面に表示されるHEMS(ホームエネルギーマネジメントシステム)の設置により、エネルギーの見える化も図っています。また、系統電源の停電時においても、電気とお湯を供給することができることも大きな特長です。

岐阜県は、複数のエネルギー資源や新たなエネルギー技術のベストミックスによる「次世代エネルギー インフラ構想」を推進しており、4例目となる「中山間地モデル」の古民家では、薪ストーブも利用した自給自足型のエネルギー供給システムの構築を目指します。

当システムは、横浜市に設置した「ENEOS創エネハウス」において行っている実証試験で得た知見に基づき、当社が設計したものであり、岐阜県の次世代エネルギーインフラ構想においては、「クックラひるがの」(商業施設モデル)、「GREENY岐阜」(家庭モデル)に次ぐ3件目の採用となります。

当社は、様々な先端エネルギー機器の組み合わせにより、環境性、経済性、快適性の観点から最適な エネルギーシステムを構築・提案し、その普及を図ることで、低炭素社会の実現に貢献してまいります。

◆「中山間地モデル」である古民家の概要

○所在地 岐阜県郡上市明宝地内

築100余年の集落におけるシンボリックな家屋。住宅として使用されるほか、地域づくり、都市と農山村との交流などに取り組む地域住民の活動拠点としても活用されている。

○目的等

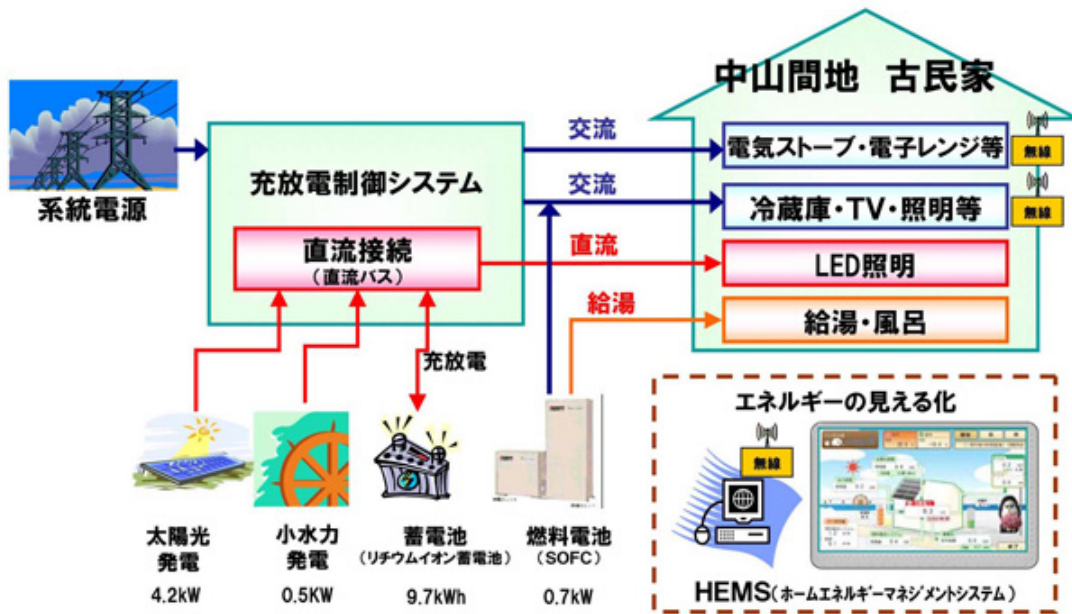
「燃料電池、太陽光発電、蓄電池並びに充放電制御システム及び小水力発電からなる独立型エネルギー供給システムによる二酸化炭素削減効果の実証」並びに「中山間地の自然資源を活用した木質ストーブの導入による二酸化炭素削減効果の実証」

○公開式 3月6日(日)午後1時30分

詳細は岐阜県庁ホームページ(新エネルギー・新産業 トップページ「新エネルギーのすすめ」)をご覧ください。

(<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo-koyo/kigyo-ritchi-shien/chusho-kigyo-shien/shinene-shinsangyo/>)

◆中山間地型 家庭用「環境対応マルチエネルギーシステム」構成図



◆古民家の外観



以上